

ぶどう「巨峰」の発芽に有効な低温遭遇時間						
<p>[要約] ぶどう「巨峰」において12月25日加温では加温開始55日後になっても発芽率が80%に達せず、休眠は完全に打破されていない。また、7.2℃以下の低温遭遇時間が長くなるほど発芽までの所要日数は少なくなる。</p>						
長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
平成4年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

巨峰の休眠完了期を明らかにし、最適な加温時期を明らかにするため、低温遭遇時間が異なる結果母枝について発芽までの所要日数を調査した。

[成果の内容・特徴]

- ① 12月下旬加温は発芽が最も遅れ、加温開始55日後でも80%には達しない(図1)。
- ② 1月上旬加温は発芽率が80%に達するまでに約40日、1月中・下旬加温は約30日必要である(図1)。
- ③ 2月加温では発芽率が80%に達するまでの期間は20~30日、3月加温では約13日である(図2)。
- ④ 加温開始日までの7.2℃以下の低温遭遇時間と発芽率が80%に達するまでの所要日数の間には高い負の相関がある(図3)。

[成果の活用面・留意点]

- ① 同じ低温遭遇時間であっても樹体内養分など他の要因で発芽所要日数が変わる場合もある。
- ② この試験の場合は加温は23℃の恒温で行っているため、実際の栽培とは発芽までの所要日数は異なる場合がある。

[具体的データ]

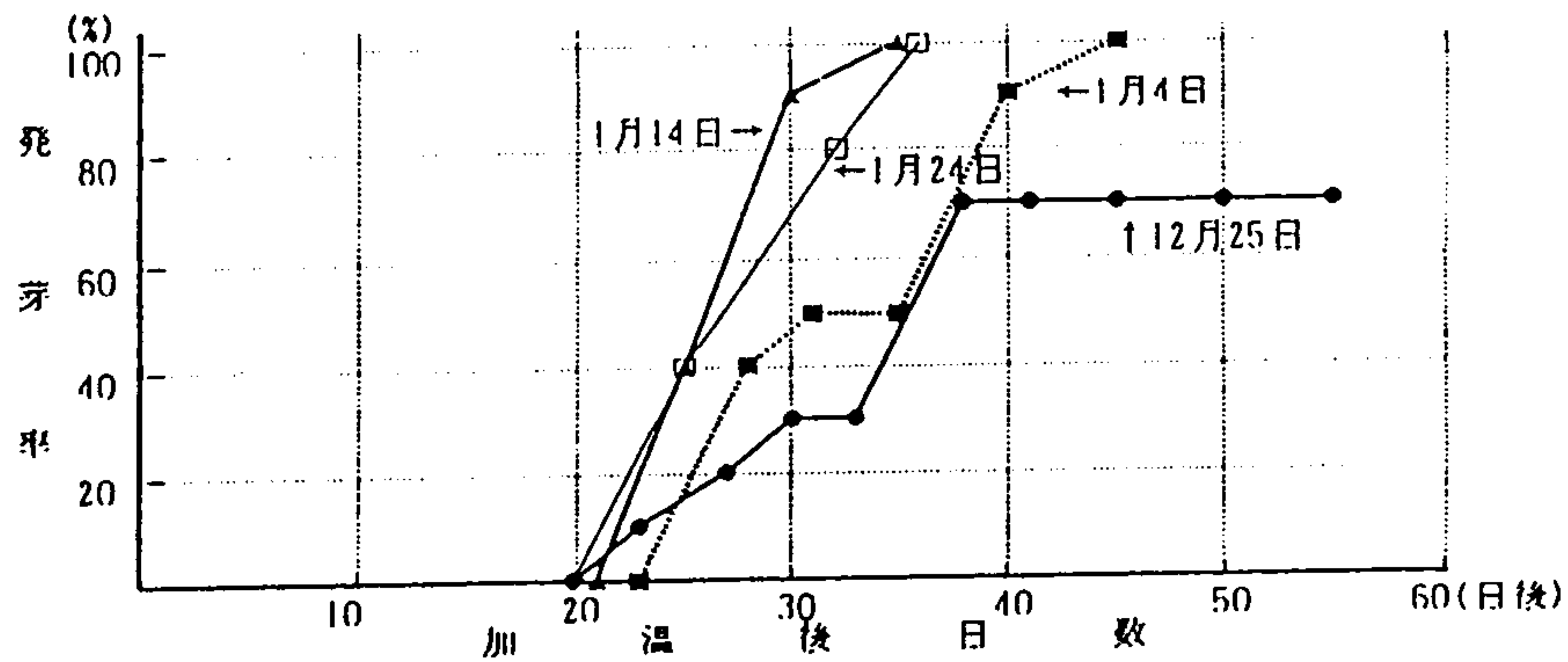


図1 加温開始時期と発芽率 (12月, 1月加温)

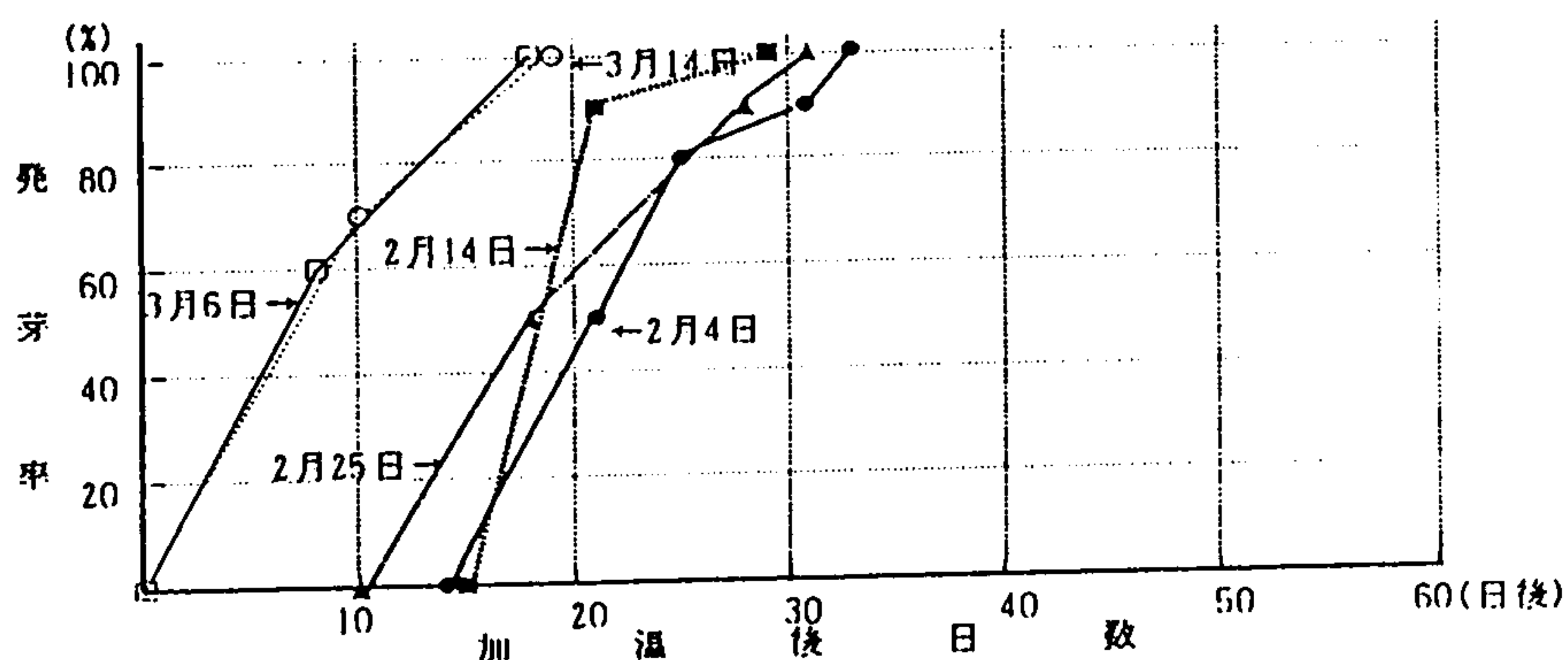


図2 加温開始時期と発芽率 (2月, 3月加温)

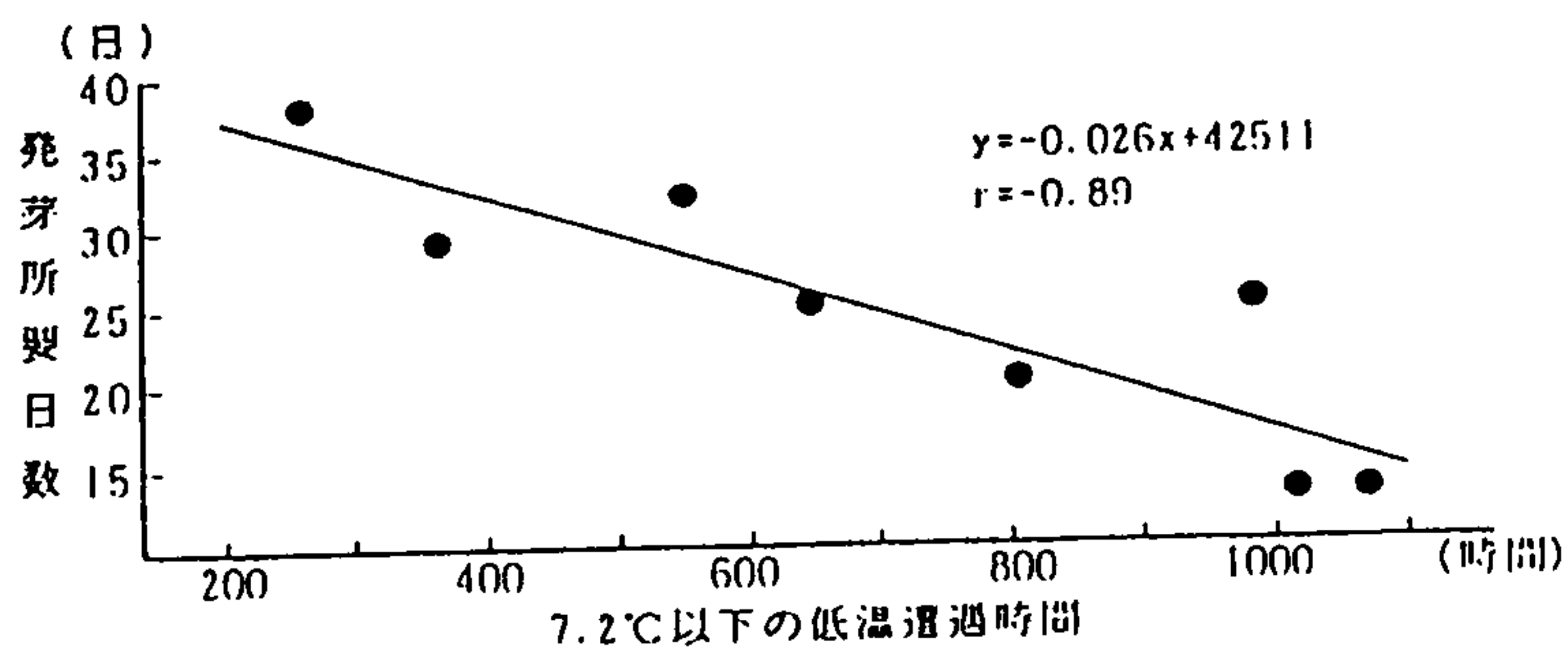


図3 低温遭遇時間と発芽所要日数

[その他]

研究課題名：ぶどうの着花安定法の確立試験

予算区分：県単

研究期間：平成4年（平成4～7年）

研究担当者：林田誠剛、森田 昭

既発表論文等：平成4年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：さらに早い加温開始時期における休眠覚醒について検討する必要がある。